

1. グラウンドに雪山を二つ作ろう

【活動の主旨】

- 冬期間、北海道の子どもたちは室内で遊ぶことが多くなります。スキー山の他に自由に遊べる雪山をグラウンドに作ると、冬季の外遊びの幅をぐんと広げることができます。

【活動の進め方】

- スキー山の1/3～半分程度の高さで十分遊べます。また、スキー山と違って、平らにする必要はありません。積みっぱなしの雪山でも楽しく遊べます。
- 雪山作りは、スキー山を造成している事業者に余った雪を積んでもらうよう依頼したり、PTAや「親父の会」を通して、重機を扱える保護者の方をお願いしたりすることもできます。
- 「滑る」、「押し相撲をする」、「基地に見立てて遊ぶ」など様々な遊び方ができます。遊びのルールを細かく決める必要はありませんが、休み時間でも教師の目が届くようにしたほうがよいでしょう。危険な遊び方が見られたら、子どもと相談したりしながらルールを決めていきます。



改造後のグラウンド



雪たんけん館 <http://yukipro.sap.hokkyodai.ac.jp/> 「雪を楽しもう」→「グラウンド改造計画」

2. 「砂撒きボランティア」をしよう

【活動の主旨】

- 冬期間にはしばしば路面が凍結します。これにより、転倒による怪我の危険が増すばかりでなく、信号が青の間に交差点を渡りきれなくなったり、傾いた歩道で車道側に体が流されたりして、身の危険を感じることも少なくありません。ペットボトルに入れた砂をそのような場所に撒くことにより、危険を減らすことができると同時に、地域社会への貢献について学習する機会となります。
- また、PTAや来校者に協力を呼びかけて、より広汎な活動にすることも可能です。

【活動の進め方】

- 500ml入りのペットボトルを用意します。各区の土木事務所に取りに行くと、砂を分けてもらえます。また、2L入りのペットボトルを切って漏斗（じょうご）の代わりにすると、砂を入れやすくなります。
- 総合の学習や学級活動の時間に、冬道の危険性について話し合います。冬道の安全を守るために市民の協力が欠かせないことを考え、「砂撒きボランティア」の活動を紹介します。
- 校区内の危険箇所を見つけ、グループで分担して撒く、あるいはペットボトルを持ち帰り、登下校時に危険を感じた時に撒くなど活動の仕方を決めます。活動中に交通事故に遭わないよう事前指導をします。
- 校区マップを掲示して、砂を撒いた場所を記録したり、学校便りなどで活動を取り上げたりすると、子どもの意欲も高まります。また、事前に各町内会に活動のことをお知らせしておくとういでしょう。
- PTAや来校者に協力を呼びかける時は、砂を入れたペットボトルをたくさん用意して玄関に置いておき、自由に持ち帰ることができるようにするなど、気軽に活動に参加できるよう準備をします。

3、「アイスクャンドルの集い」を楽しもう

【活動の主旨】

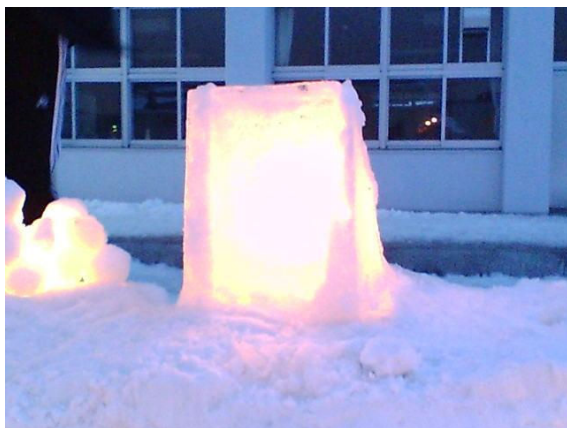
- ・アイスクャンドル・スノーキャンドル作りは北国の冬ならではの楽しみで、子どもからお年寄りまで参加できます。雪の校庭にたくさんのキャンドルが一齐に灯ると、美しい光景が広がります
- ・夜にかけての活動になるので、保護者・PTAの協力を得ながら進めるようにします。



バケツに水と雪を入れ、塩ビパイプなどで中をくりぬきます。そして、バケツをひっくり返して雪を取り出し、2～3日屋外に置いておくと、立派なアイスクャンドルの出来上がり！



雪玉で作ることもできます。水を入れたバケツに雪を入れ、その雪で雪玉を作って積んでいきます。その中にろうソクを入れて火を灯せば、ほら、ご覧の通り！



くつ箱に使うトレイで板状の氷を作り、4枚で箱形のキャンドルを作ることもできます。冬の一夜をキャンドルで彩ってみてはいかがでしょうか？